



www.tenpla.net

プラネタリウム

vol.
157

今月のお題

.....

博多の夜、シミュレーション図で世界を語る

以前、このコラムでもご紹介したシミュレーション図がとうとう完成。お披露目するイベントを博多で行ってきました。

高梨直絢（東京大学）／平松正顕（国立天文台チリ観測所）



博多の熱い夜が過ぎていきます。

宇宙図制作メンバーの小阪淳さん、片桐暁さんを中心に制作したシミュレーション図。シミュレーションという切り口で科学・技術だけでなく、人文学や社会科学も俯瞰するという、なかなか野心的な科学ポスターになっています。機会があればぜひ手に取ってみてください。

このポスターを作り上げるにあたって、制作メンバー内では1,200通以上のメールをやりとりし、さまざまな議論を重ねていきました。シミュレーションという概念が関係する分野は幅広く、誰もが合意できる客観的な事実がある分野もあれば、人によって解釈がわかれることが当たり前分野も含まれます。例えば、なにかを押し量るといふシミュレーションの側面と関連づいた命題として、「サルに心はあるか？」という問いがあります。これに対する答えは、「心」をどう捉えるかによってさまざまな考え方があり得ます。シミュレーションにはなにかを模倣する

という意味もありますが、では「模倣される“本物”とはいったいなにか？」という問いに対してもまた、みんなの意見が簡単に一致することもないでしょう。シミュレーション図は、議論を呼ぶ図なのです。そんなシミュレーション図の魅力を知ってもらうことを目的に、「シミュレーション図で世界を語る」という怪しげなイベントをしてきましたので、ご報告します。

地球存亡を掛けて生物多様性を考える

イベントが行われたのは、3月15日の夜。福岡市の博多天神にある屋台「忠助」がその会場です。“議論をするための図”をお披露目するのに、これ以上相應しい場所はないでしょう。屋台を貸切にして、総勢12名というこぢんまりとしたイベントでした。少人数に絞ってじっくりと議論し、そこで出てきた面白い話題は別の形で皆さんに還元する、という考えの

組み立てです。

シミュレーション図の解説から始まって、最後は存在や世界の成り立ち方について語るなど、実にディープな展開だったイベント。2時間という限られた時間でしたが、参加者だけでなく屋台の大將にも議論も加わる熱い夜でした。議論の詳細については別途レポートをサイトに公開しますが、ひとことだけ感想を述べればたいへん良かったです。今回は福岡での開催でしたが、今度は東京で、東京らしい場所を使ってイベントを企画する予定です。関心のある方は、ぜひ一緒に。